

FUJITEC

2025年3月期 連結業績概要 および 2026年3月期 連結業績計画

2025年5月14日

フジテック株式会社

(東京証券取引所プライム市場: 6406)



エレ・グランス
Elê Glance

2025年3月期連結業績概況

- ◆ 受注高、売上高、営業利益額において、過去最高額を更新
 - 受注高は2,565億円(前年比10.5%増)： 米州・欧州、東アジアを除き過去最高
 - 売上高は2,413億円(前年比5.2%増)： 東アジアを除き過去最高
 - 営業利益は162億円(前年比16億円増)： 東アジアを除き過去最高
 - 営業利益率は0.3pt改善し、6.7%。日本の営業利益率は10%を達成

2026年3月期連結業績計画

- ◆ 売上高、営業利益額、営業利益率をいずれも過去最高更新を目指す
 - 売上高計画は2,440億円(2025年3月期比1.1%増)： 前提レートの円高により増収率は低下
 - 営業利益計画は229億円(2025年3月期比67.3億円増)： 日本、東アジア、米州・欧州で大きく増益
 - 営業利益率計画は9.4%： 2025年3月期比+2.7pt向上
 - 設備投資計画は65億円(2025年3月期実績比17.2億円減)
 - 前提為替レート： US1ドル=140.00円(2025年3月期実績150.88円)

2025年3月期連結業績概況

受注高、売上高、営業利益、経常利益において過去最高を更新
当期純利益は昨年香港で発生した固定資産売却の特別利益がなくなることにより減少
(金額単位：百万円未満切捨)

	2024年3月期	2025年3月期	増減率(%)
受注高	232,188	256,493	10.5
売上高	229,401	241,253	5.2
営業利益	14,571	16,171	11.0
経常利益	18,717	18,866	0.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	17,830	14,514	▲ 18.6
1株当たり当期純利益	228.55円	185.99円	-

対米ドル円為替レート

140.44円

150.88円

セグメント別業績ハイライト



受注は日本・南アジアで、売上と営業利益は東アジアを除き、過去最高を更新

＜事業別＞

(金額単位：百万円未満切捨)

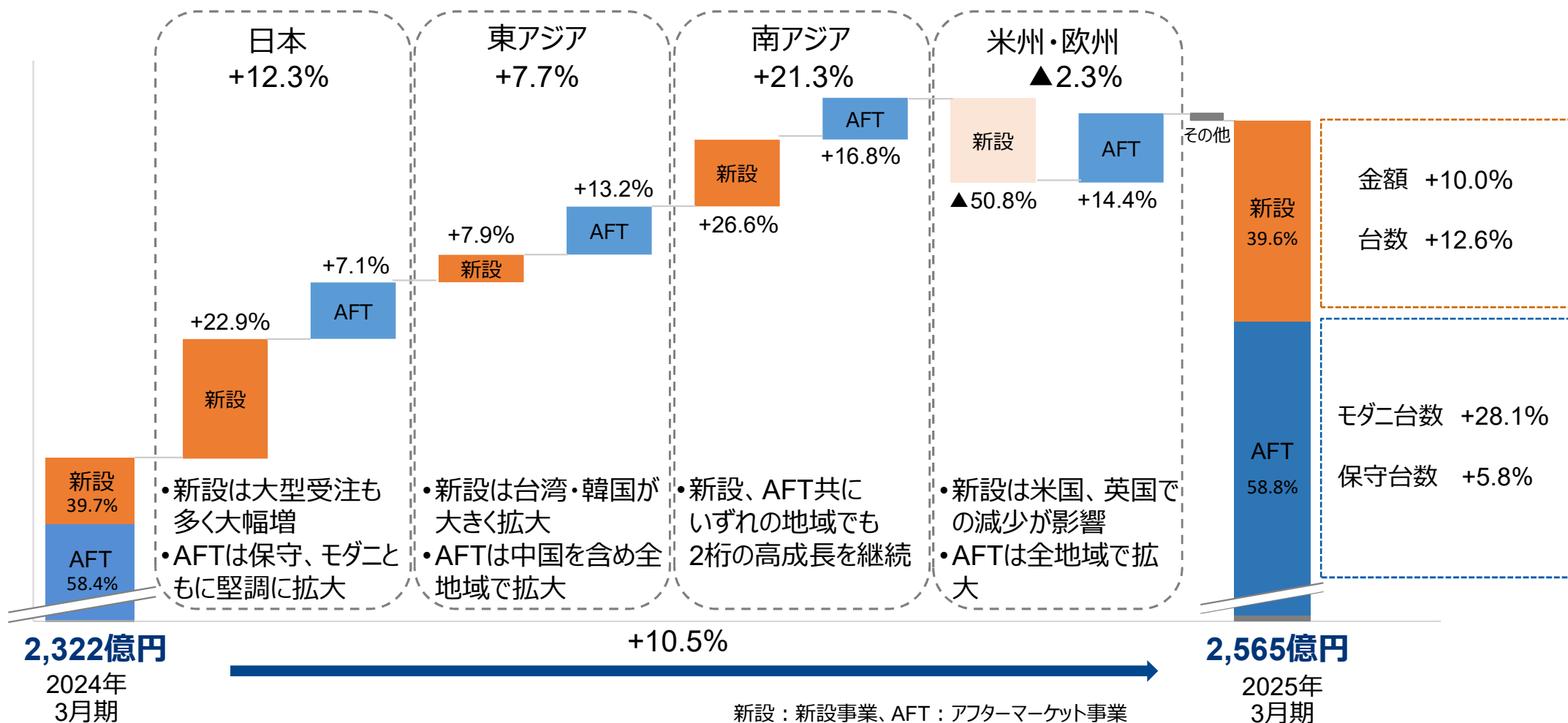
	受注			売上高		
	2024年3月期	2025年3月期	増減率(%)	2024年3月期	2025年3月期	増減率(%)
新設	92,233	101,473	10.0	96,159	93,706	▲2.6
アフターマーケット	135,531	150,945	11.4	129,546	143,570	10.8
その他・調整額	4,425	4,076	-	3,697	3,978	-
合計	232,188	256,493	10.5	229,401	241,253	5.2

＜エリア別＞

	受注			売上高			営業利益または営業損失		
	2024年3月期	2025年3月期	増減率(%)	2024年3月期	2025年3月期	増減率(%)	2024年3月期	2025年3月期	増減額
日本	97,248	109,200	12.3	88,072	91,908	4.4	6,645	9,293	2,648
東アジア	66,242	71,331	7.7	79,378	71,123	▲10.4	1,630	▲966	▲2,596
南アジア	36,078	43,749	21.3	31,000	38,927	25.6	5,010	6,324	1,314
米州・欧州	48,002	46,882	▲2.3	45,776	53,646	17.2	1,455	1,574	118
調整額	▲15,383	▲14,671	-	▲14,826	▲14,352	-	▲169	▲55	114
合計	232,188	256,493	10.5	229,401	241,253	5.2	14,571	16,171	1,599

受注高ブレークダウン

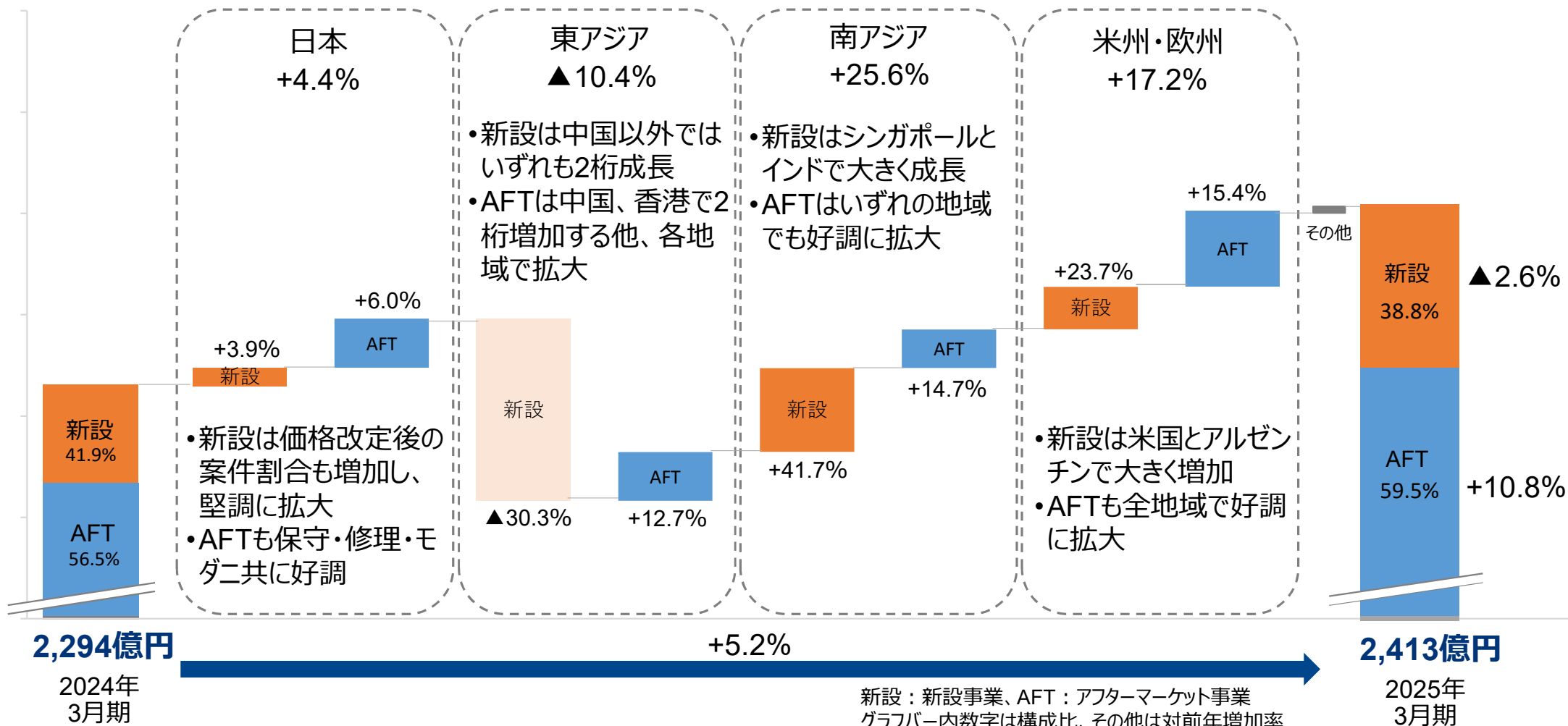
セグメント別では、米州・欧州を除き増加。事業別ではアフターマーケット事業は全セグメントで増加



売上高ブレークダウン

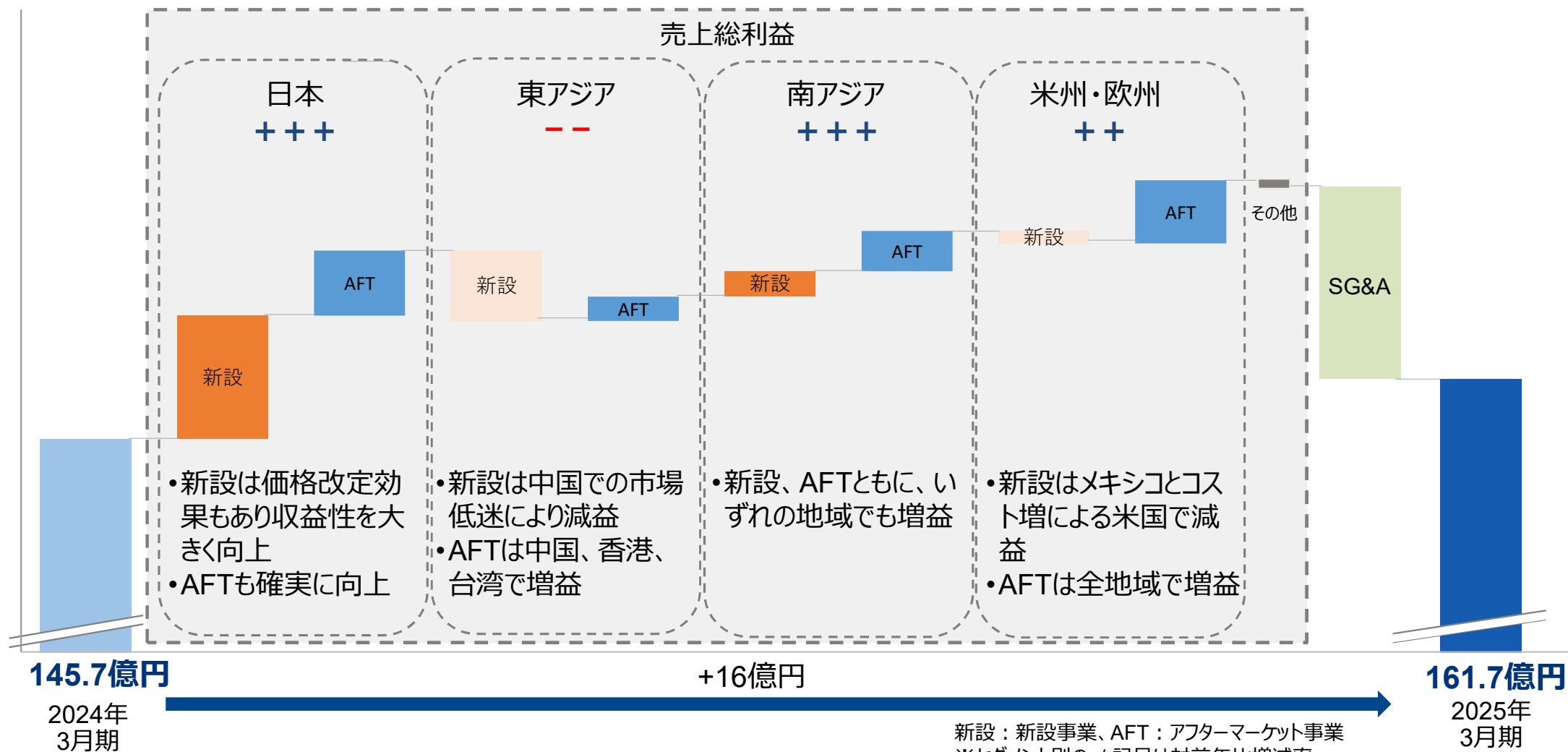
FUJITEC

売上高は、日本、南アジア、米州・欧州で過去最高。新設事業は東アジアで減少するも他は好調に推移、アフターマーケット事業は全地域で拡大



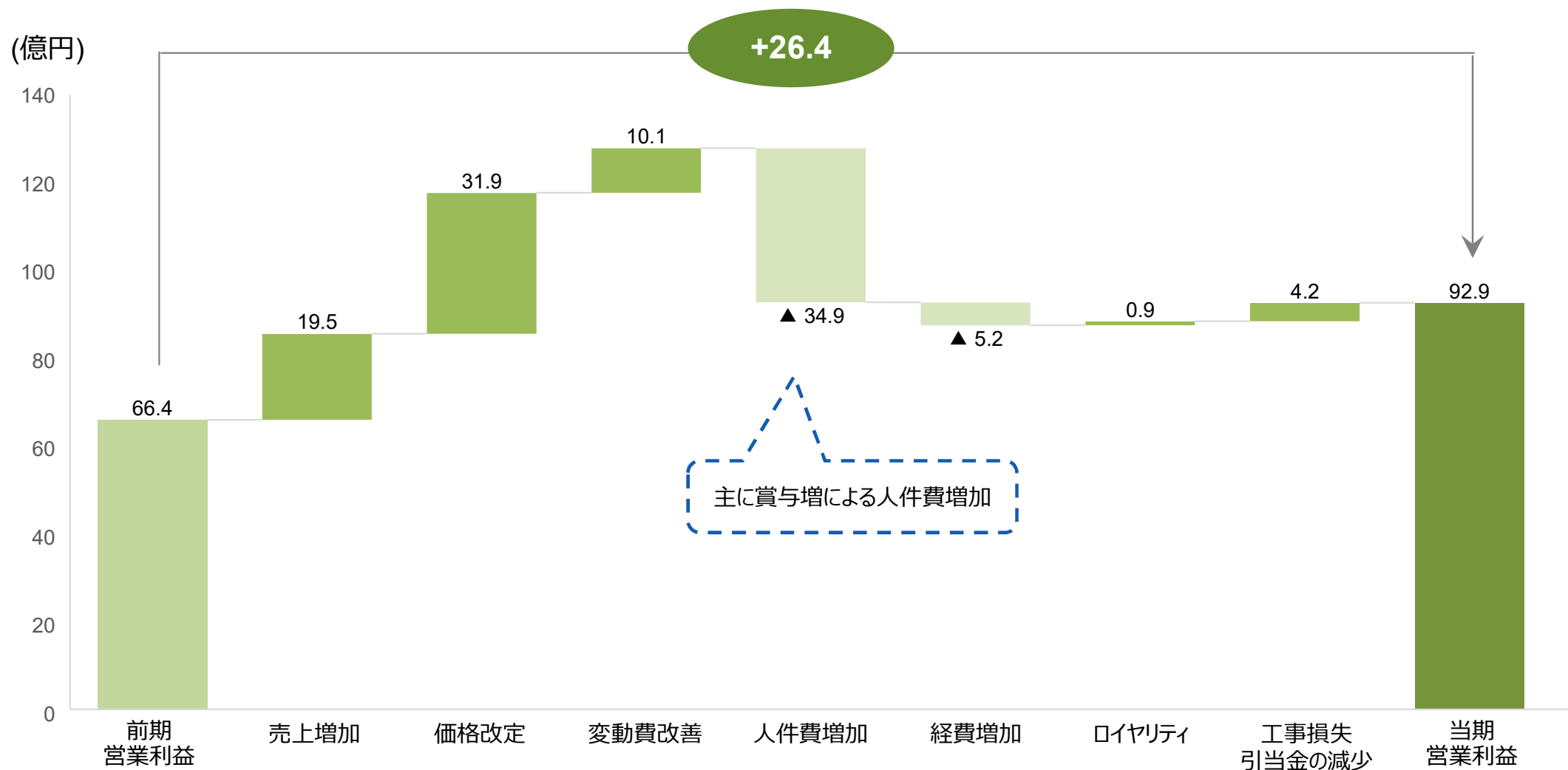
営業利益ブレークダウン

営業利益は東アジアを除き過去最高。日本は営業利益率が10%超えを達成



2025年3月期営業利益の変動要因：日本

好調な売上増加と価格改定効果の拡大により、大きく営業利益は向上。営業利益率は10.1%を達成



2026年3月期連結業績計画

売上高、営業利益・営業利益率は共に過去最高値の更新を目指す
 売上高の増加率は急激な為替の円高を背景に低位となるも、営業利益・営業利益率は大きく改善

(金額単位：百万円未満切捨)

	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (計画)	増減率(%)
売上高	241,253	244,000	1.1
営業利益	16,171	22,900	41.6
営業利益率	6.7%	9.4%	—
経常利益	18,866	23,800	26.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,514	17,000	17.1
1株当たり当期純利益	185.99円	217.82円	—

対米ドル円為替レート

150.88 円

140.00円

セグメント別連結業績計画

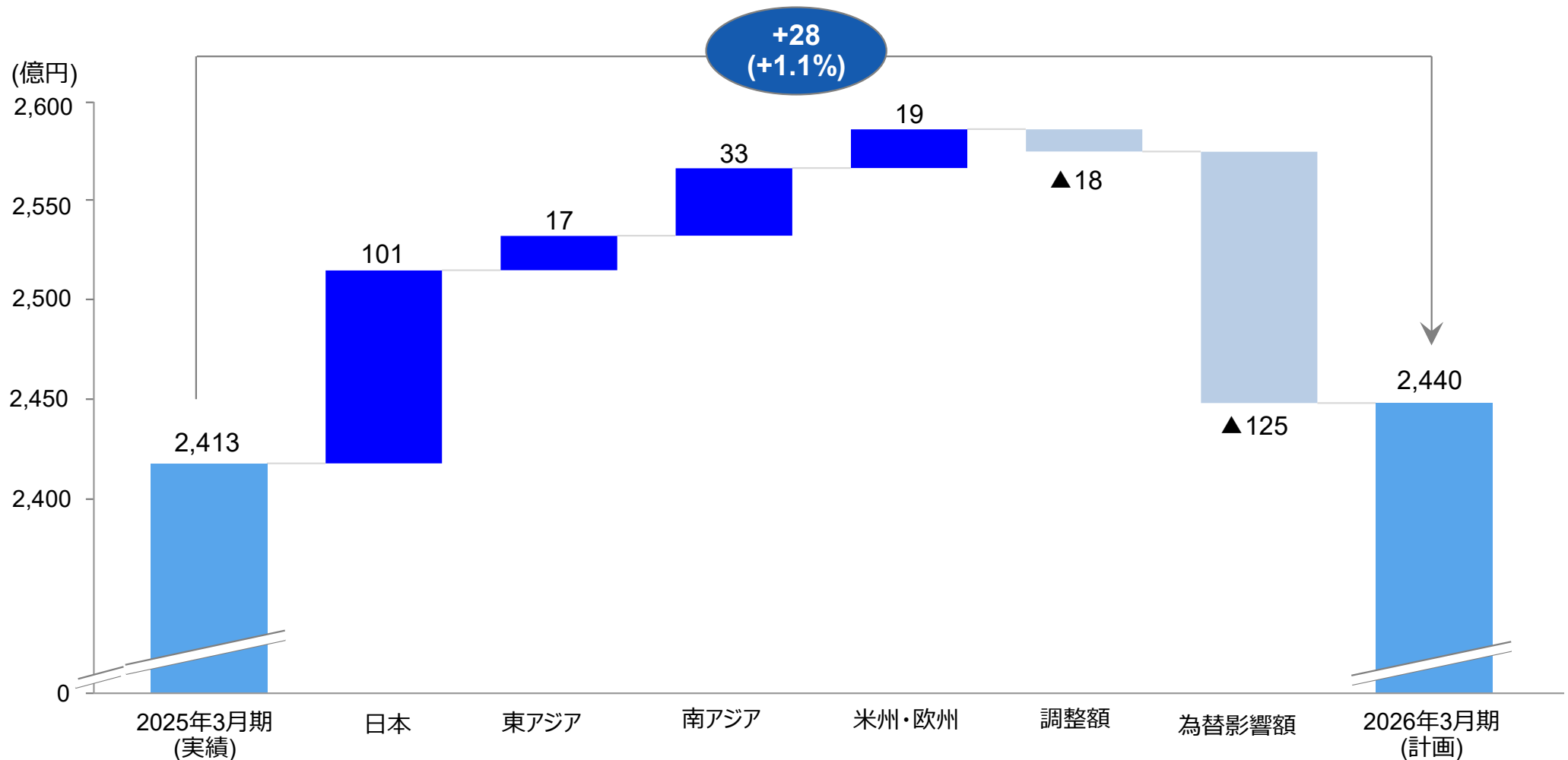
売上高は東アジアと米州・欧州は微減となるも、日本と南アジアで拡大し、全体では過去最高を更新
営業利益は南アジアが2025年3月期比微減となるも、その他は大きく増益となり、全体で過去最高を更新

(金額単位：百万円未満切捨)

	売上高			営業利益または営業損失		
	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (計画)	増減率(%)	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (計画)	増減額
日 本	91,908	102,000	11.0	9,293	11,300	2,006
東 ア ジ ア	71,123	66,500	▲6.5	▲966	2,700	3,666
南 ア ジ ア	38,927	39,500	1.5	6,324	5,400	▲924
米 州 ・ 欧 州	53,646	51,000	▲4.9	1,574	3,500	1,925
小 計	255,605	259,000	1.3	16,226	22,900	6,673
調 整 額	▲14,352	▲15,000	—	▲55	—	55
合 計	241,253	244,000	1.1	16,171	22,900	6,728

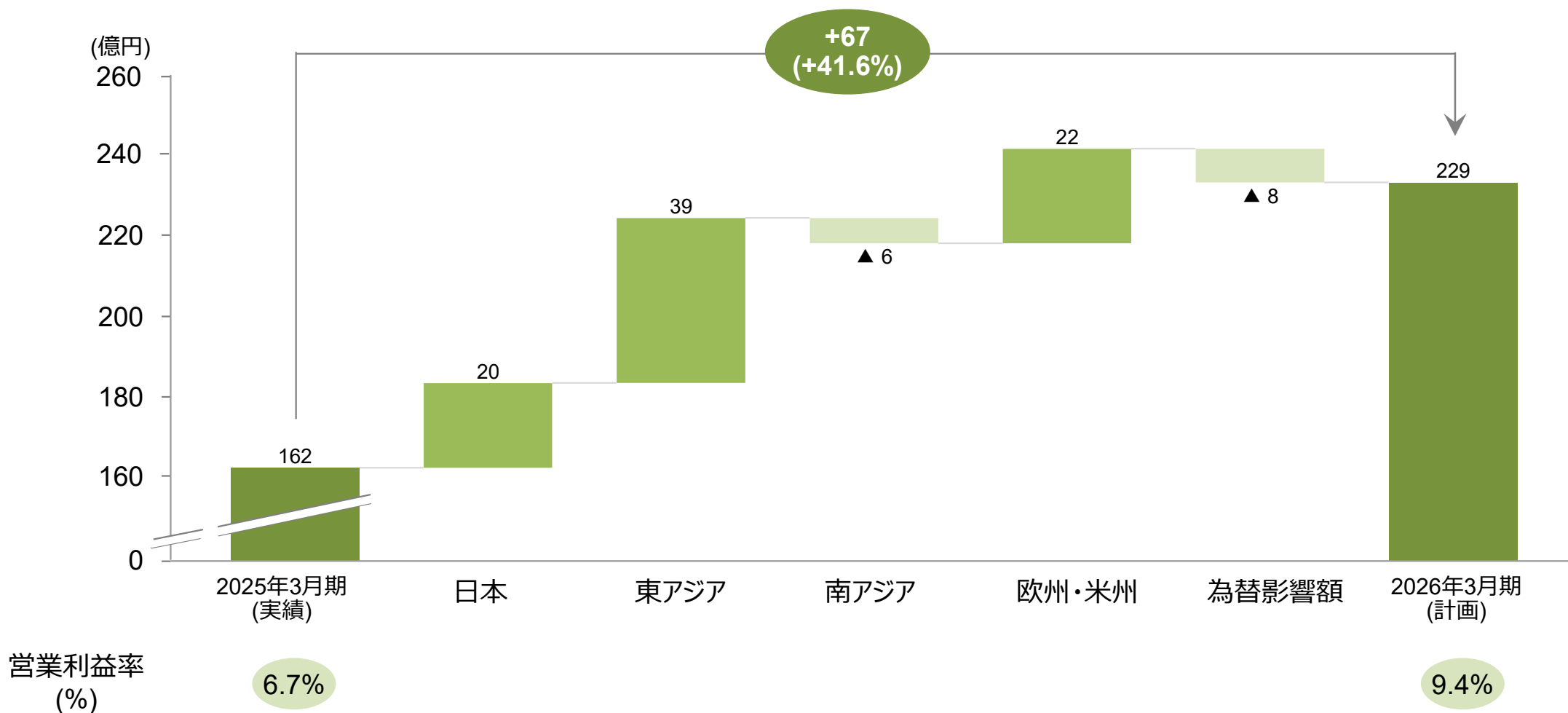
売上高計画ブレークダウン

日本は好調な受注と価格改定を反映し増加。東アジアは中国市場の低迷が続くと想定
南アジアはインドの好調が持続し、米州・欧州は前年受注が低下した米国を除き増収



営業利益計画ブレークダウン

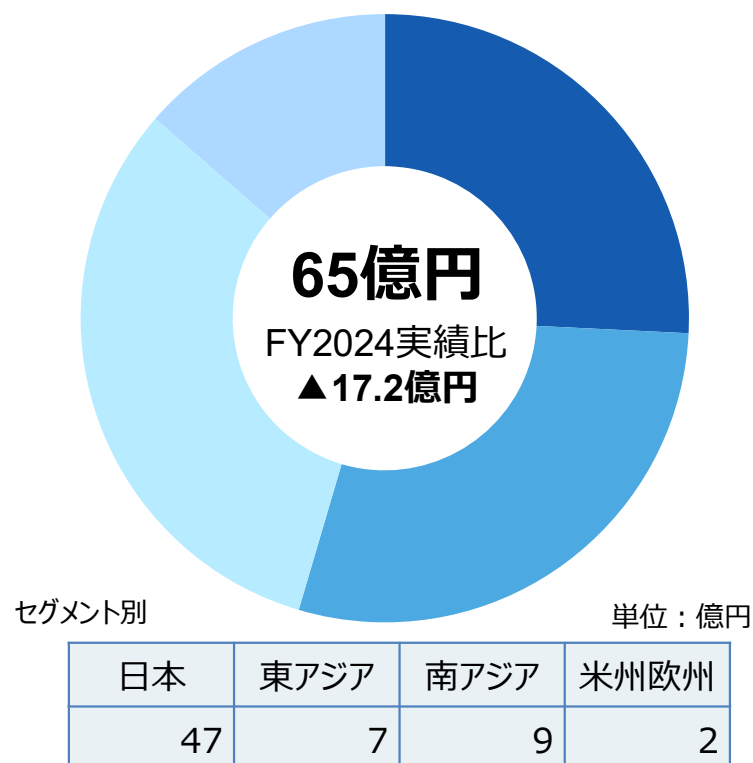
南アジアでコスト増加要因により減益となるものの、その他地域は大幅に増益を計画
全体では過去最高を更新し、営業利益率も前年比+2.7ptと大きく向上を目指す



FY2024-25 営業利益の変動要因： 地域別サマリ

(億円)	FY2024-25 営業利益の変動			主な変動要因
	FY2024	FY2025	変動額	
日本	93 (10.1%)	113 (11.1%)	+20 (+1pt)	<ul style="list-style-type: none"> 好調な売上の拡大と価格転嫁の進展により、事業面の収益が向上 一方、工事損失引当金の戻し入れの減少と好調な業績を反映した賞与増やリソース確保による人員増に昇給を加えた人件費増などコスト面は増加
東アジア	▲10 (▲1.4%)	27 (4.1%)	+37 (+5.5pt)	<ul style="list-style-type: none"> 香港、台湾、韓国は好調な事業により増益基調を継続 中国は事業環境の厳しさが続く中、事業収益を改善 昨年実施した人員削減効果(9億円)と貸倒引当金基準変更等の一過性要因剥落(7億)が増益に貢献
南アジア	63 (16.2%)	54 (13.7%)	▲9 (▲2.5pt)	<ul style="list-style-type: none"> インドは好調持続で増益となるも、シンガポールで人件費等のコストや日本へのロイヤリティの増加に加え、為替の円高影響も加わり、減益 セグメント内のインド構成比の拡大により利益率は低下
米州・欧州	16 (2.9%)	35 (6.9%)	+19 (+4.0pt)	<ul style="list-style-type: none"> 米国で収益性の低い新設案件の減少に加え、大型修理プロジェクトの進展や、保守価格改定による収益性改善の効果により増益、利益率も大きく改善 カナダ、英国、メキシコ、アルゼンチンもいずれも増益
	162 (6.7%)	229 (9.4%)	+67 (+2.7pt)	

FY25は前年度比17.2億円減の総額65億円の設備投資を計画



能力増強投資：17億円

- 日本：6億、東アジア：2億、南アジア：8億、米州欧州：1億

更新投資：19億円

- 日本：16億、東アジア：1.4億、南アジア：0.6億、米州欧州：1億

収益性向上・IT・開発投資：20億円

- 各種作業改善・コストダウン投資
- IT活用・ITインフラ整備投資・研究開発投資

環境・安全改善投資：9億円

- 環境対策・安全対策強化投資
- 職場環境改善投資

トピックス：中期経営計画「**Move On 5**」の推進状況

Mid-Term BUSINESS PLAN 2024-2028

FUJITEC

「Move On 5」の目標達成に向け、各種施策を着実に実行

新標準機「エレ・グラン」の販売開始決定

- 国内向け標準型エレベータ「エレ・グラン」が2025年4月1日から販売開始
- デザイン・メンテナンス性・災害対策を強化し、当社の目指す「専門メーカーとしての美しさとおもてなし」を体現



インド・ムンバイで展示会に出展

- インド国内での認知拡大のため、インド・ムンバイで開催されたエレベータ・エスカレータの展示会「International Sourcing Exposition for Elevators & Escalators」に出展
- ダブルデッキエレベータや行先階登録システム「EZ-SHUTTLE(イージーシャトル)」、「ミラー天井」のモックアップを展示し、インド国内での認知拡大と技術力をPR



←実際の展示ブースの様子

渋谷サクラステージで採用された「ミラー天井」を再現展示→



品質評価施設「ウィズダムスクエア」が完成

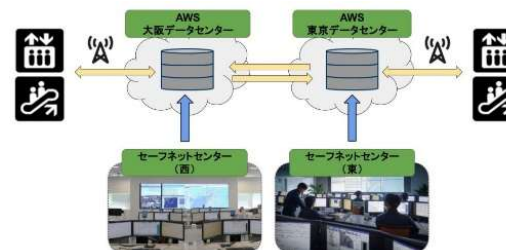
- エレベータ・エスカレータの品質評価施設「ウィズダムスクエア」が竣工
- 品質に特化した評価による商品面での性能・信頼性の向上だけでなく、据付工法の開発・検証も行い、フィールド分野の品質も強化
- グローバル商品の品質サポートにも対応



ウィズダム スクエアの建物外観

セーフネットセンターのBCP対策を強化

- エレベータ・エスカレータを24時間365日監視する「セーフネットセンター」向けのデータベースサーバを、クラウド化および分散配置
- クラウド環境への移行により、機器故障や建物被災の影響によるシステムリスクを大幅に低減



←システム構築図
クラウド環境は東京・大阪の2か所のデータセンターに分散配置し、発生頻度の低い災害事象も考慮

TAKANAWA GATEWAY CITYにエレベータ・エスカレータ92台を納入、ロボット連携で未来のまちづくりに貢献

- 2025年3月27日に街びらきしたJR高輪ゲートウェイ駅直結の複合再開発「TAKANAWA GATEWAY CITY」に、エレベータ・エスカレータ計92台を納入
- 街全体で取り組む課題のうちの1つである「人とロボットとの共生」への取組として、ロボット連携を導入。街に配備される警備、清掃、デリバリーなどのロボットとエレベータが連携して、自律的に階を移動できる仕様を採用



TAKANAWA GATEWAY CITY外観



エレベータとロボット「デリロ」の連携イメージ
(JR目黒MARCビルでの実証実験の様子)

アフターマーケット事業の強化：モダニゼーション事業推進と保守サービス向上

モダニゼーション事業推進：

①戸開走行保護装置の大臣認定を取得

- エレベータのドアが開いた状態でかごが動き出した場合に、素早く制止する安全装置「戸開走行保護装置」に関して、他社製のエレベータにも設置可能な機器構成で、新たに国土交通大臣の認定を取得

②他社機器モダニゼーションの現場調査をDXで効率化

- デジタルツールの活用により、他社製エレベータのモダニゼーションで課題となっていた現場調査時間を半分以上に短縮
- 作業効率向上だけでなく、調査に伴うエレベータの停止時間の短縮化により顧客満足度の向上にも期待



実際の調査作業の様子

保守サービス向上：

ビル管理者向けサービス「エレモリ」に新機能が追加



elemori
エレモリ

- お客様の要望にお応えし、ビル管理者向けのウェブサービス「エレモリ」に新機能を追加
- 行政への提出が必要な法定検査書類についてエレモリでの受け渡しが可能となり、お客様の業務効率化とペーパーレス化に寄与
- ほかにも報告書の抽出機能や通知メールからのアクセス性向上などの機能を追加し、利便性が向上

主な受注案件

FUJITEC

新設

新宿駅西口地区開発計画 (日本・東京)
エレベータ23台 エスカレータ42台 計65台

新設

(仮称) 八重洲二丁目中地区
第一種市街地再開発事業新築工事 (日本・東京)
エレベータ29台 エスカレータ20台 計49台

新設

道玄坂二丁目南地区第一種市街地再開発事業(日本・東京)
エレベータ 27台 エスカレータ 2台 計29台

新設

Summarecon Mall Bekasi (インドネシア)
エレベータ8台 エスカレータ22台 計30台

新設

MRG Crown (インド)
エレベータ115台

新設

Sona Vistaas (インド)
エレベータ19台



新宿駅西口地区開発計画
(日本・東京)



Summarecon
Mall Bekasi
(インドネシア)

モダンゼーション

ボートレース福岡 (日本・福岡)
エスカレータ4台

モダンゼーション

ウィルあいち 愛知県女性総合センター (日本・愛知)
エレベータ5台

参考資料

連結貸借対照表

FUJITEC

(金額単位：百万円未満切捨)

	2024年3月31日	2025年3月31日	増減額	備考
流動資産	190,484	195,424	4,939	
現金及び預金	80,560	82,942	2,381	日本、米州・欧州での増加
受取手形、売掛金及び契約資産	85,141	90,343	5,202	南アジアでの増加
棚卸資産	20,918	21,451	533	
その他	7,653	6,519	▲1,134	
貸倒引当金	▲3,789	▲5,833	▲2,043	
固定資産	65,917	66,833	916	
有形固定資産	39,547	44,325	4,778	設備投資額+8,223、減価償却費▲4,315 為替ほか+870
無形固定資産	6,036	5,803	▲233	
投資その他の資産	20,334	16,705	▲3,628	投資有価証券▲3,926
総資産	256,402	262,257	5,855	
流動負債	84,304	87,238	2,934	支払手形及び買掛金+1,199、前受金+3,089
固定負債	6,921	4,383	▲2,537	退職給付に係る負債▲2,618
純資産	165,177	170,635	5,458	為替調整勘定+9,170、利益剰余金▲579 その他有価証券評価差額金▲2,339
自己資本比率	57.9%	59.3%	1.4pt	
B P S	1,901.28円	1,994.06円	92.78円	

キャッシュフローの状況

(金額単位：百万円未満切捨)

	2024年3月期	2025年3月期	増減額
現金及び現金同等物 期首残高	31,463	38,987	7,523
営業活動キャッシュ・フロー	17,498	15,402	▲2,095
投資活動キャッシュ・フロー	433	16,514	16,081
フリーキャッシュ・フロー	17,931	31,917	13,985
財務活動キャッシュ・フロー	▲12,104	▲19,270	▲7,165
現金及び現金同等物 期末残高	38,987	54,738	15,750

主な納入実績

FUJITEC

新設



提供：グラングリーン大阪開発事業者



グラングリーン大阪(日本・大阪)
エレベータ19台 エスカレータ28台 計47台

新設



BMO Exhibition and Stampede Center(カナダ)
エレベータ6台 エスカレータ8台 計14台

新設



福州 シャングリ・ラ センター／
福州 シャングリ・ラ ホテル (中国)
エレベータ 26台 エスカレータ 47台 計73台

新設



ホテルインディゴ
長崎グラバーストリート(日本・長崎)
エレベータ4台

新設

ゼロカーボンベースボールパーク
(日本・兵庫)
エレベータ4台

*環境に配慮したエコフレンドリーな仕様を採用したエレベータ

新設

パティナー大阪 (日本・大阪)
エレベータ12台

モダンゼーション

大阪中央卸売市場(日本・大阪)
エレベータ11台

社 名	フジテック株式会社
設 立	1948年2月 (1974年2月東証第一部上場、2022年4月東証プライム市場移行)
本 社	ビッグウイング 滋賀県彦根市宮田町591番地1
事業内容	エレベータ、エスカレータの研究開発・製造・販売 据付・保守
資 本 金	125億33百万円(発行済株式数78,900,000株)
役 員	代表取締役社長 原田 政佳 取締役：9名(うち社外6名) 監査役：4名(うち社外2名)
従業員数	連結 11,777名(単独 3,336名)
関係会社	39社(内、連結子会社24社) (日本、米州、東アジア、南アジア、欧州、中近東)

将来展望に関する記述等についての注意事項

FUJITEC

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。

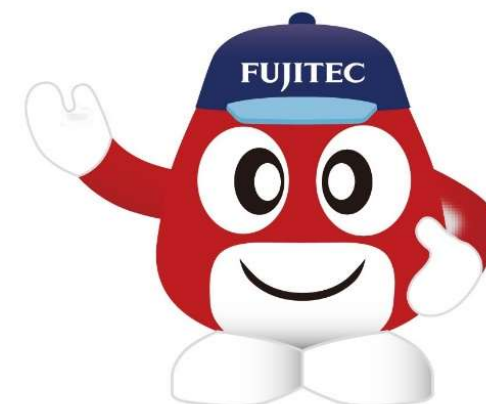
既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2025年5月14日現在において利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

2025年5月14日

フジテック株式会社

2025年3月期 連結業績概要



テッキー